

図1 共同システムの深さと広さ

		共同化の広さ						
		勘定系	対外系	バッチ系	情報系	営業店	ATM	市場系
共同化の深さ	同一仕様のシステムをそれぞれ保有	じゅうだん会						
	データセンターまで共用	広島福銀共同						
		PROBANK						
		Chance						
ソフトウェアまで共用	BeSTA							
	NEXTBASE							

(出典) 日経コンピュータ(2008.12.1)を参考に、山沖によるヒアリング結果に基づき作成

図2-1 貸出金平残:1行当たり平均
(2006.3期→2010.3期)

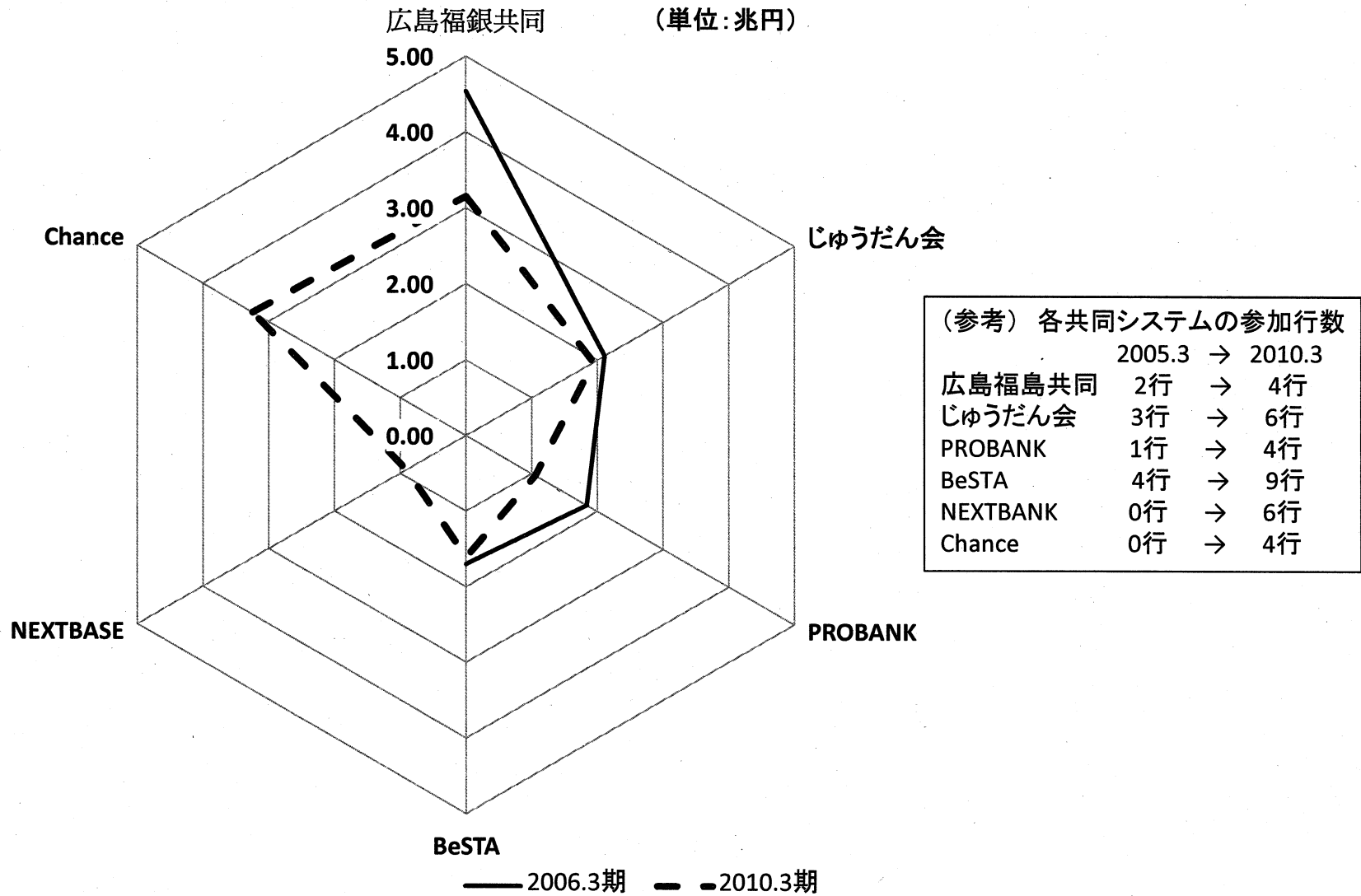


図2-2 余資運用平残：1行当たり平均
(2006.3期→2010.3期)

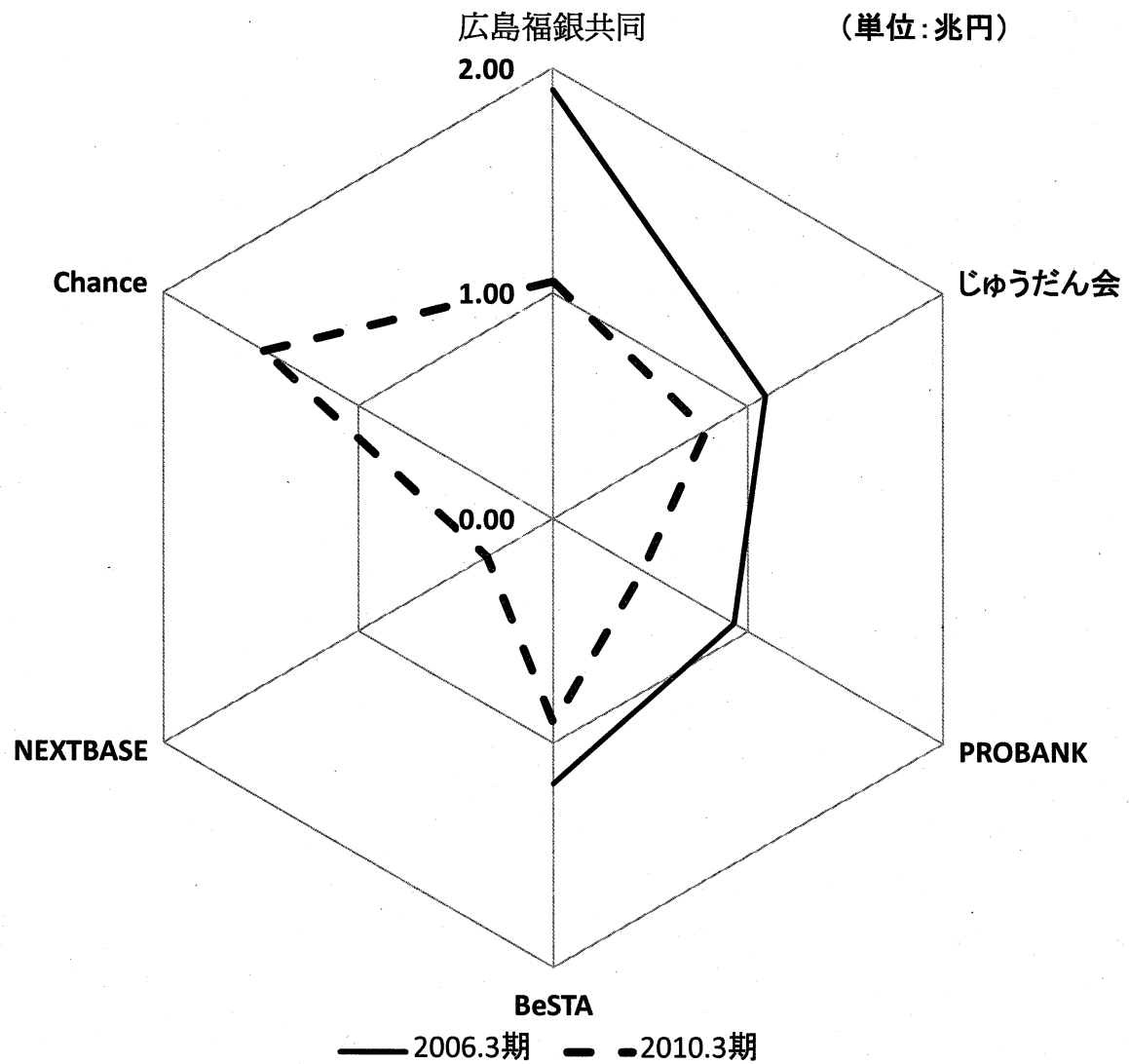


図2-3 資金調達平残：1行当たり平均
(2006.3期→2010.3期)

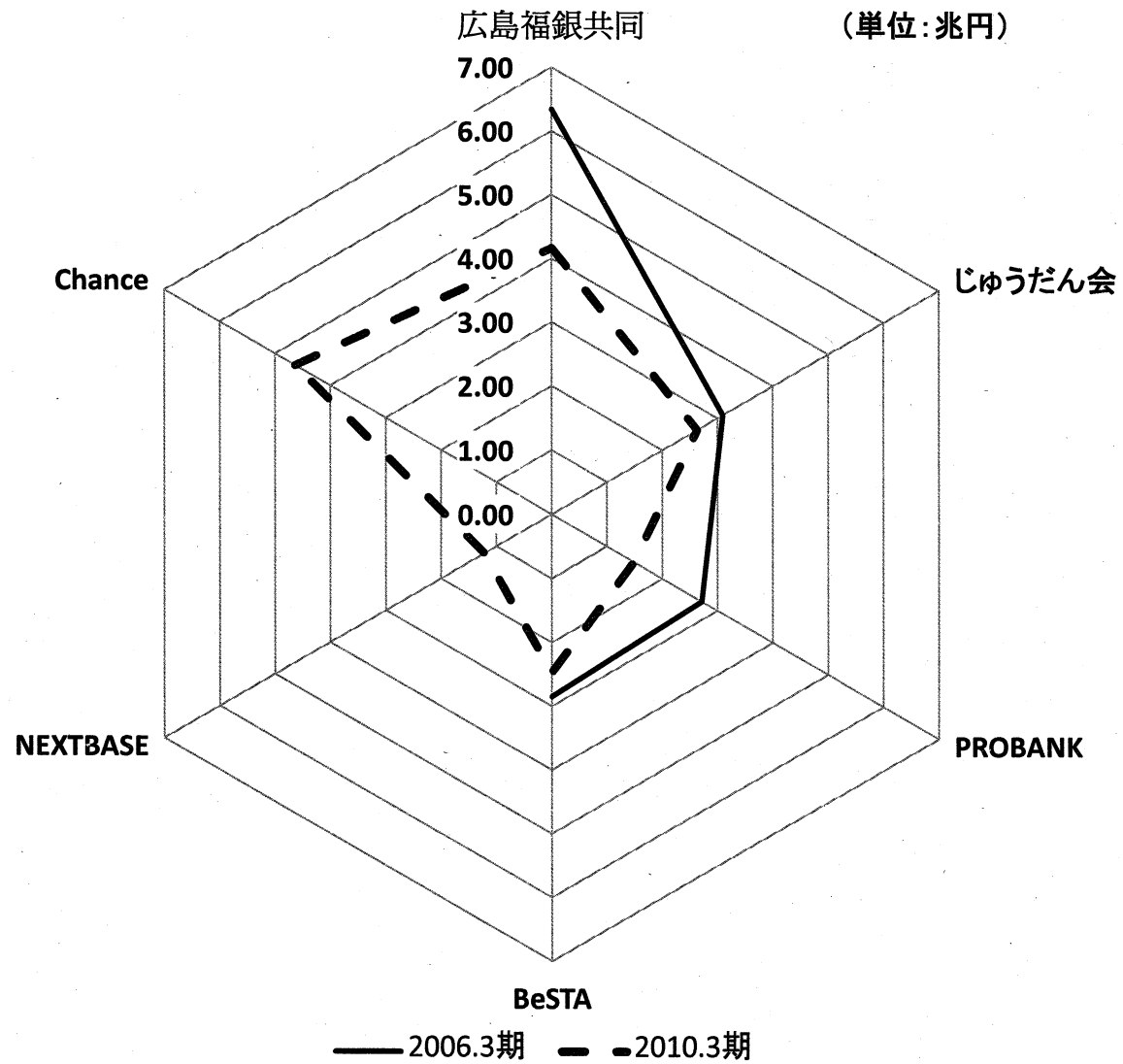


図2-4 貸出金利回り(2006.3期→2010.3期)

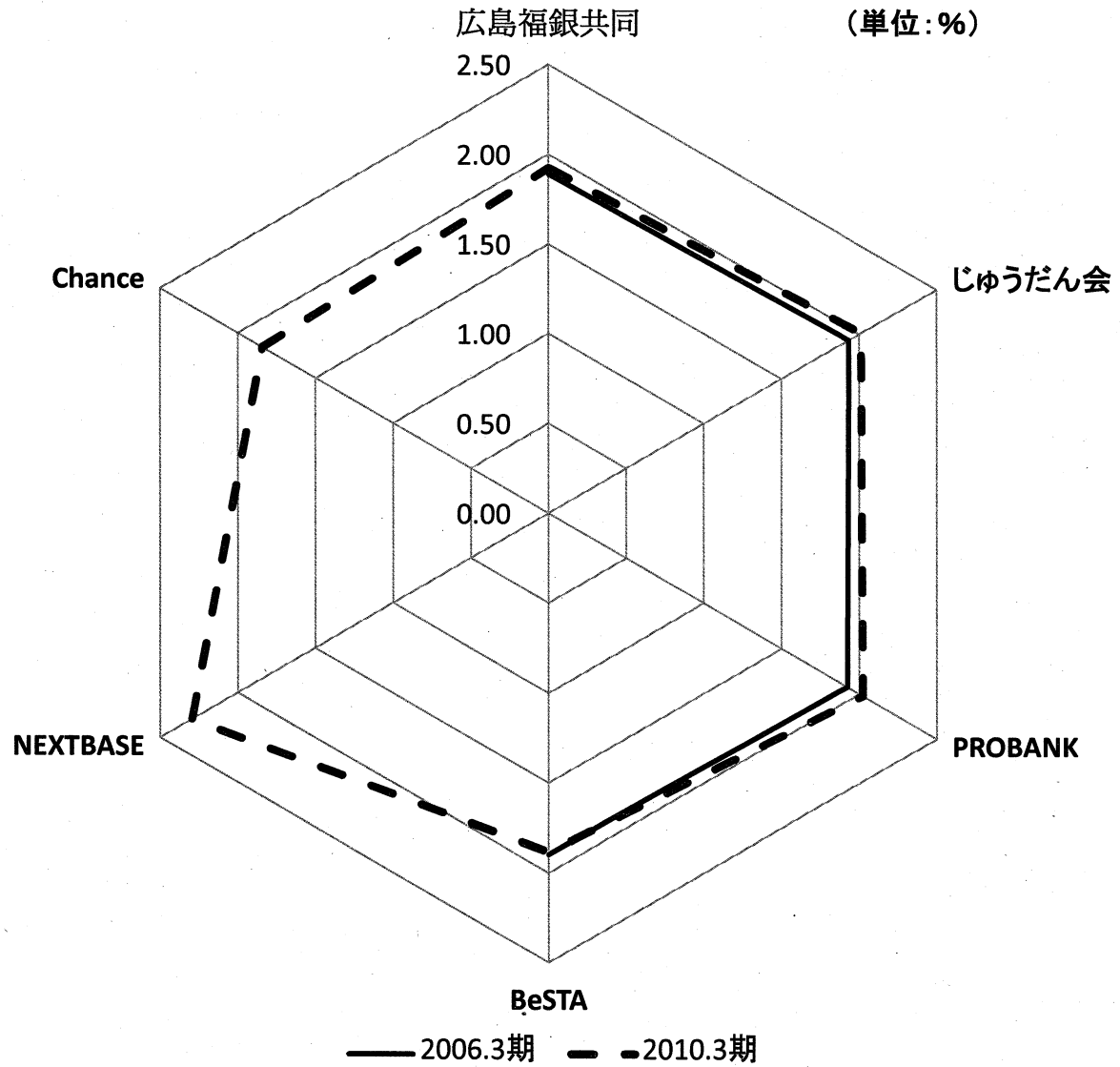


図2-5 余資運用利回り(2006.3期→2010.3期)

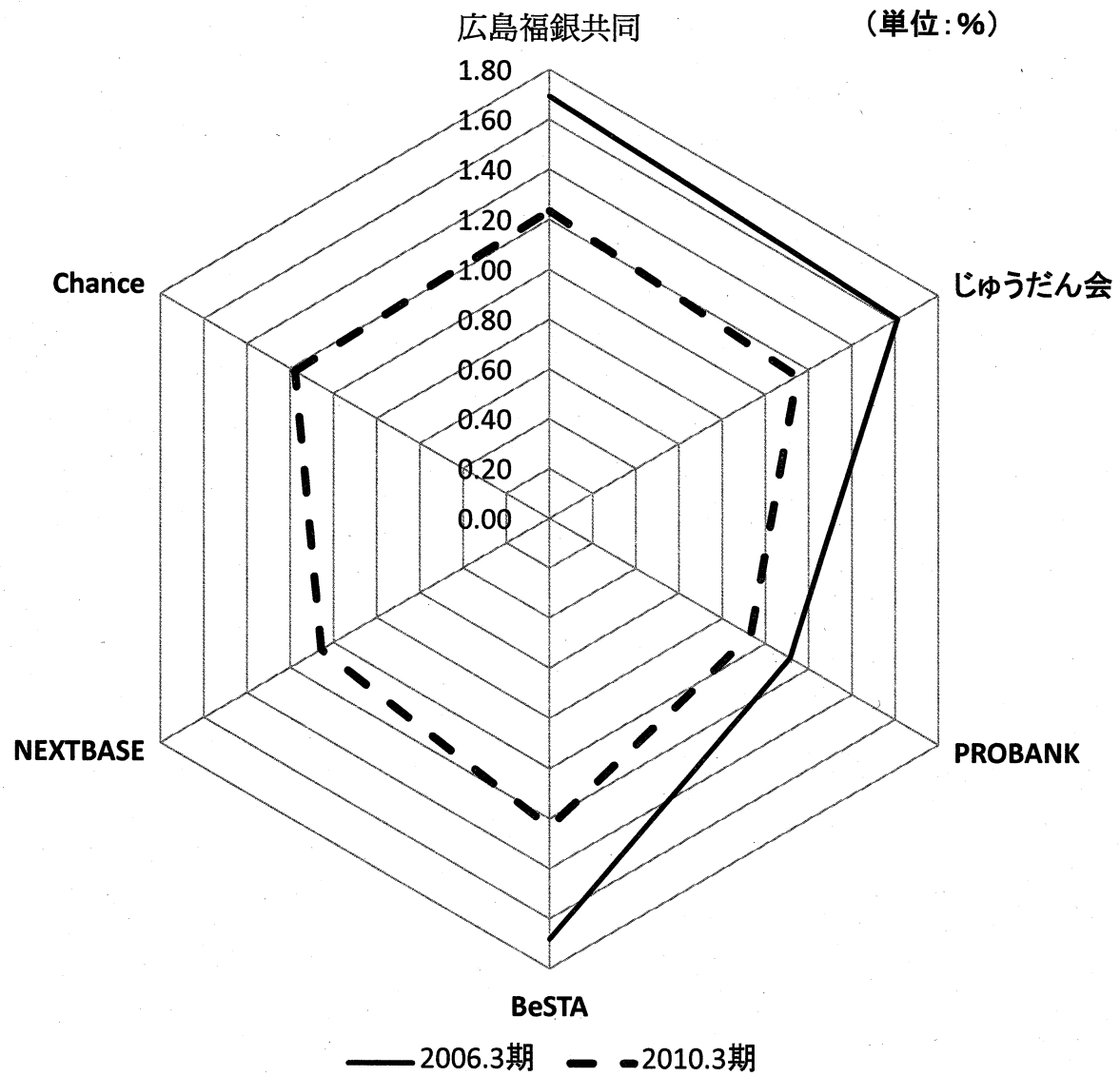


図2-6 営業経費率(2006.3期→2010.3期)

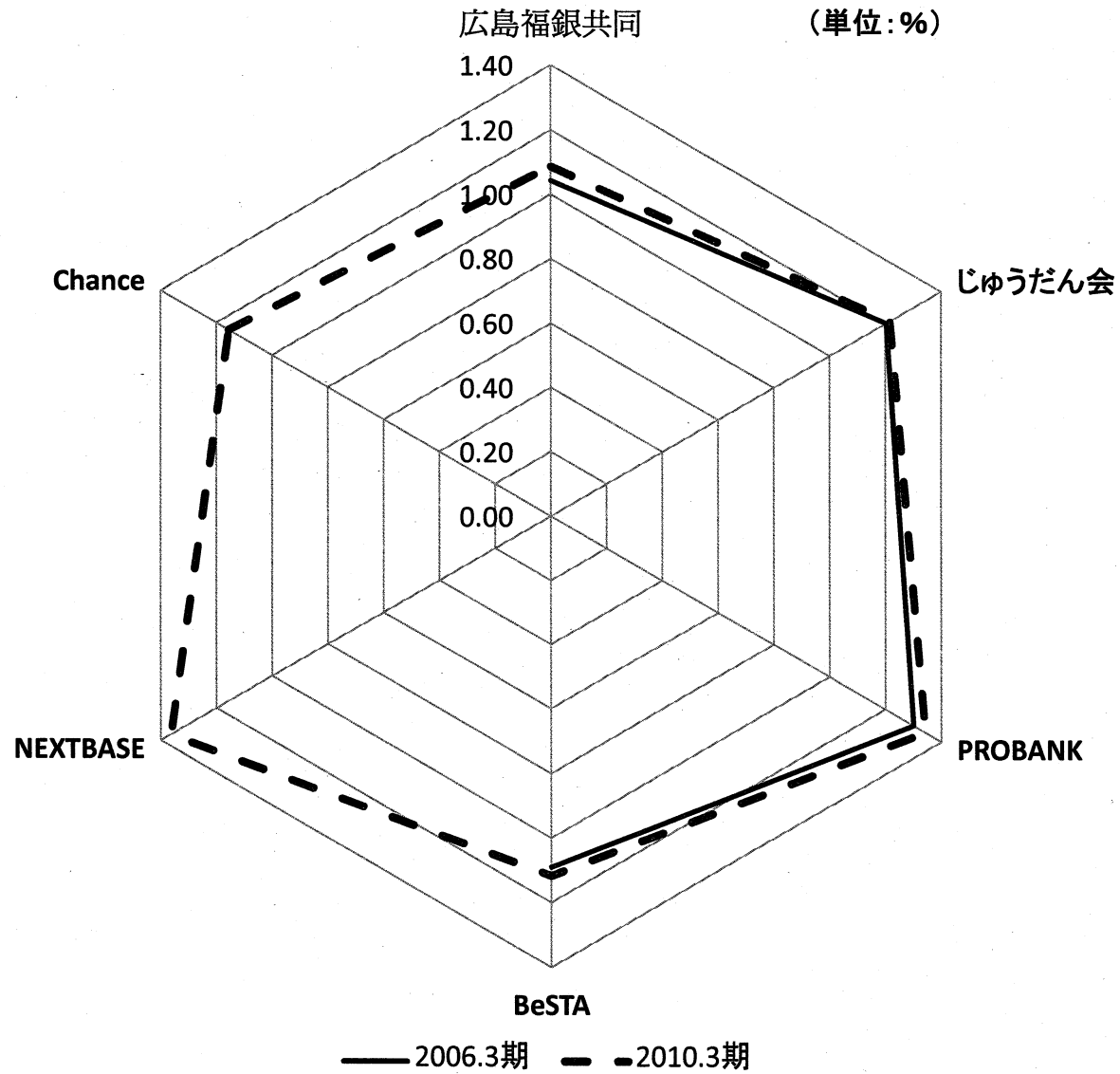


図2-7 一般貸倒引当率(2006.3期→2010.3期)

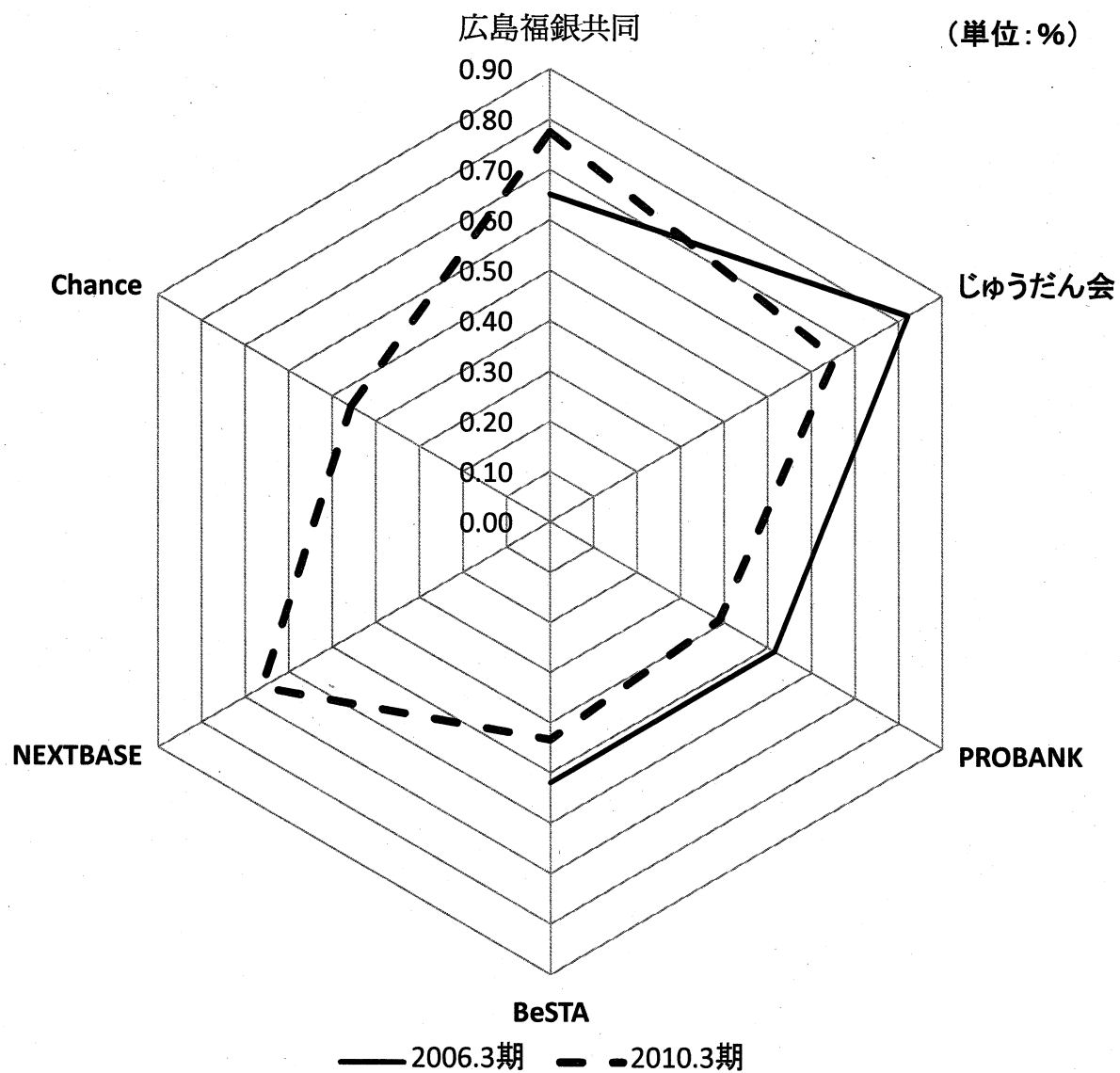
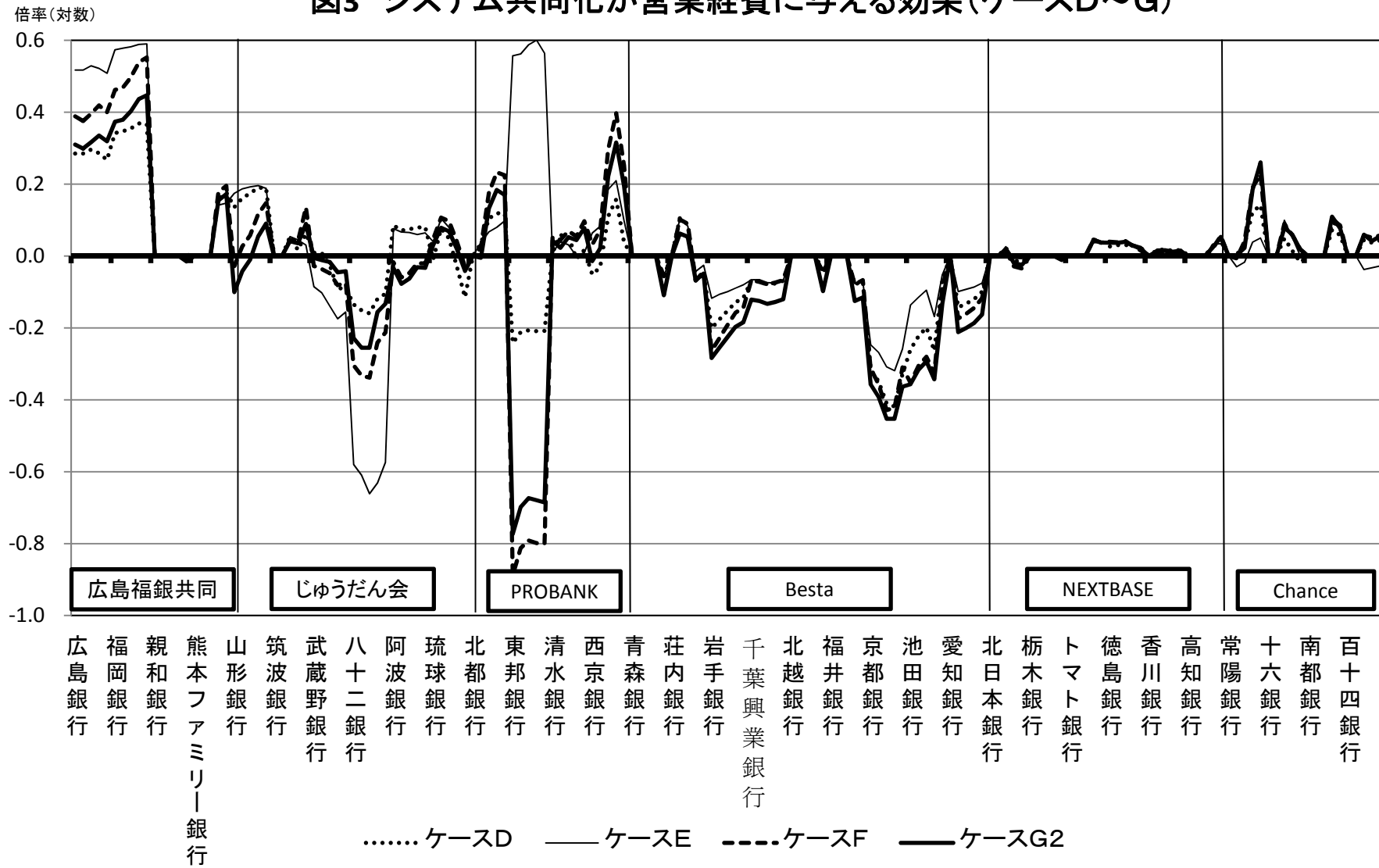
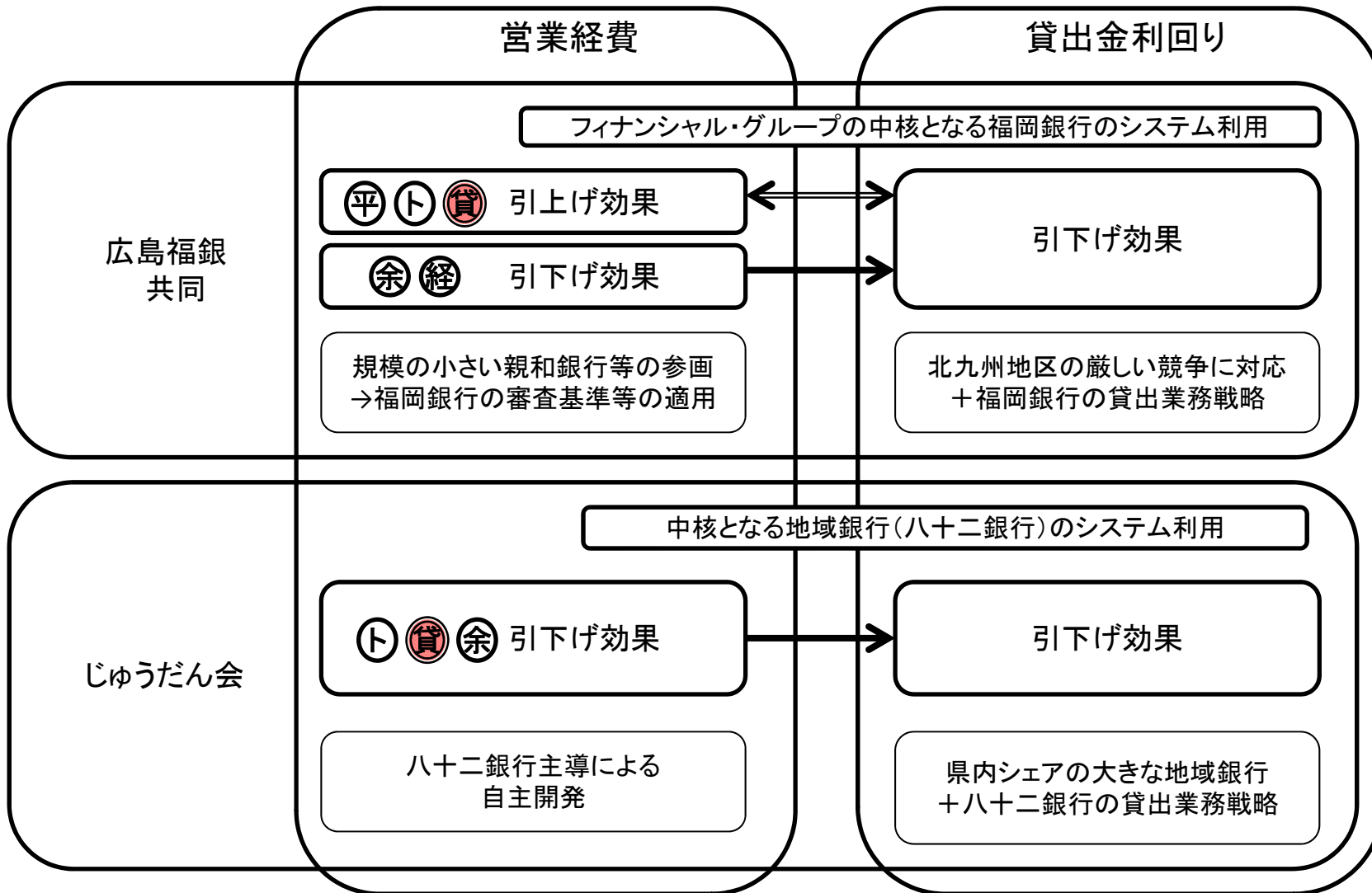


図3 システム共同化が営業経費に与える効果(ケースD~G)



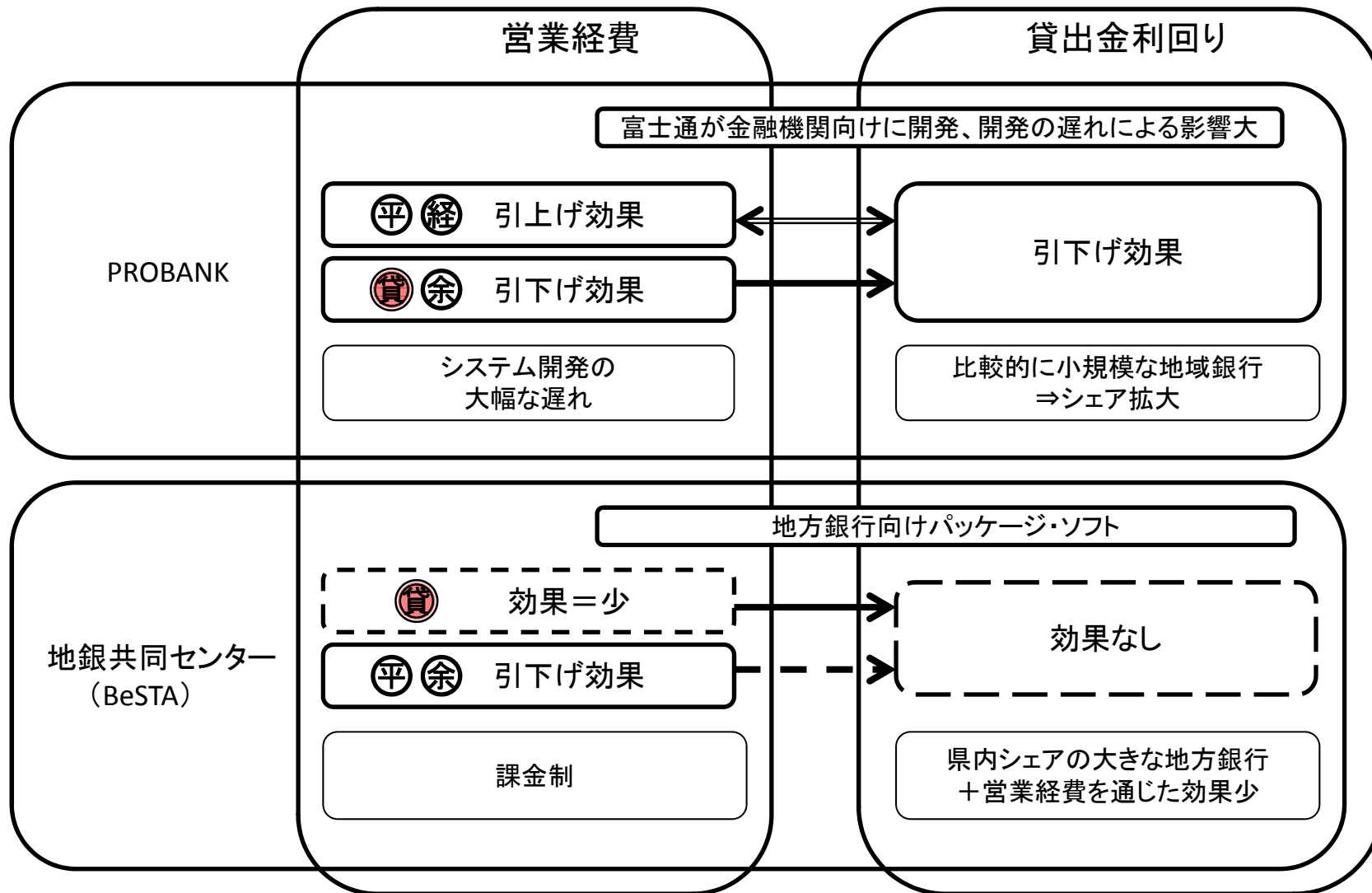
(注) ケースG2は、ケースGのうち導入の翌年度以降の効果を表している。

図4-1 システム共同化による貸出金利回りへの影響(その1)



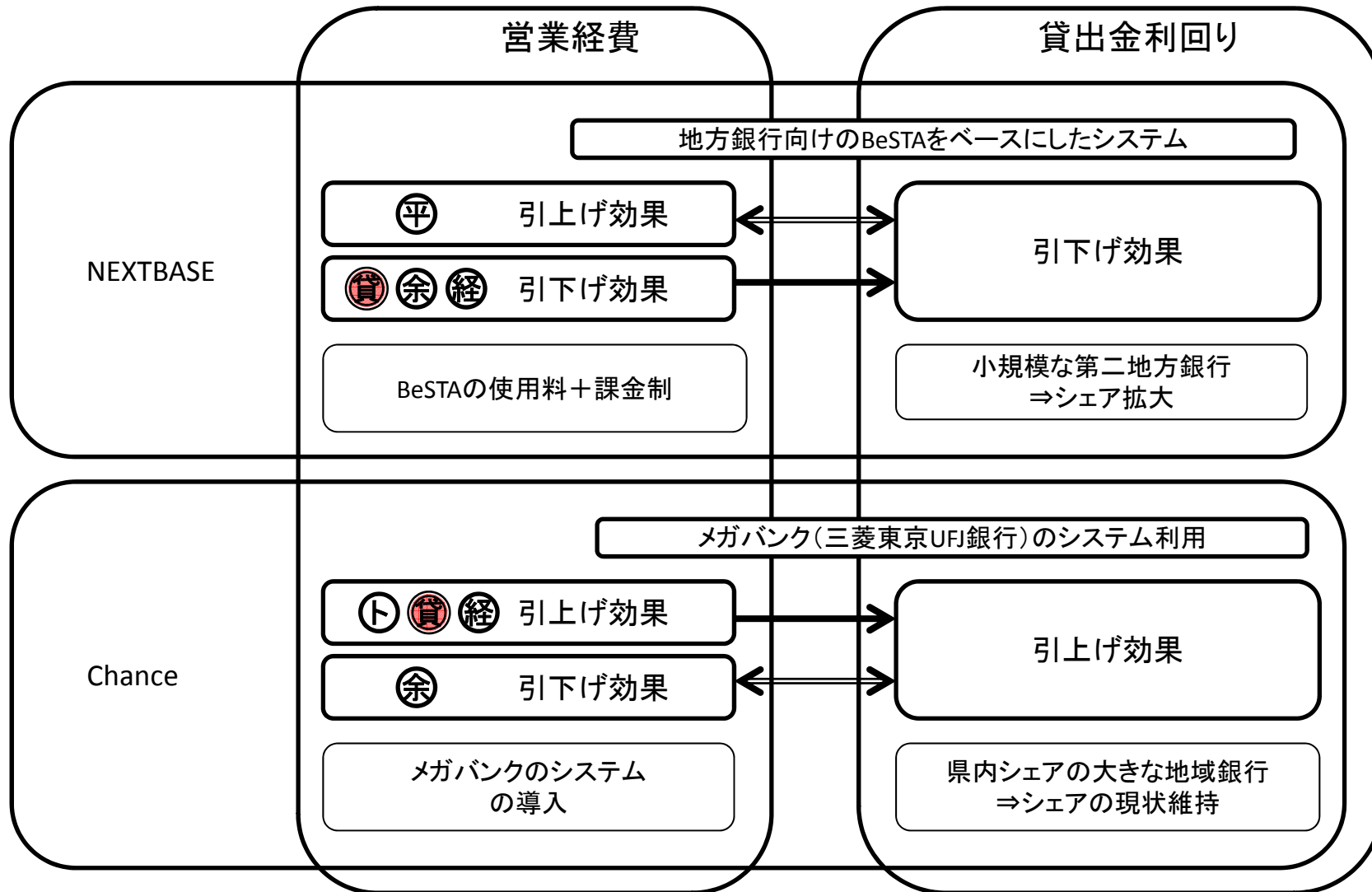
(注) ①印は平均的な効果、②印はトレンド効果、③印は貸出業務、④印は余資運用業務に係る経費率の変化による効果を示す。また、⑤印は経費率の全体の効果を表す。

図4-2 システム共同化による貸出金利回りへの影響(その2)



(注) ①印は平均的な効果、②印はトレンド効果、③印は貸出業務、④印は余資運用業務に係る経費率の変化による効果を示す。また、⑤印は経費率の全体の効果を表す。

図4-3 システム共同化による貸出金利回りへの影響(その3)



(注) ① 印は平均的な効果、② 印はトレンド効果、③ 印は貸出業務、④ 印は余資運用業務に係る経費率の変化による効果を示す。また、⑤ 印は経費率の全体の効果を表す。